



システムに着目した不登校支援  
「かかわる」「つなぐ」「つくる」

## 不登校支援を見直してみませんか？

### 目次



#### 教師個人用評価

個人用評価チェックシート

- ・家庭訪問
- ・職員室
- ・保健室・相談室登校
- ・評価・研修
- ・部活動登校
- ・情報



#### 連携システム評価

情報は流れていますか？ <チェックシート>

- ・三者連携
- ・校内連携
- ・行政との連携
- ・適応指導教室との連携
- ・地域との連携



#### 不登校支援確認シート

学級担任

コーディネーター

学校組織

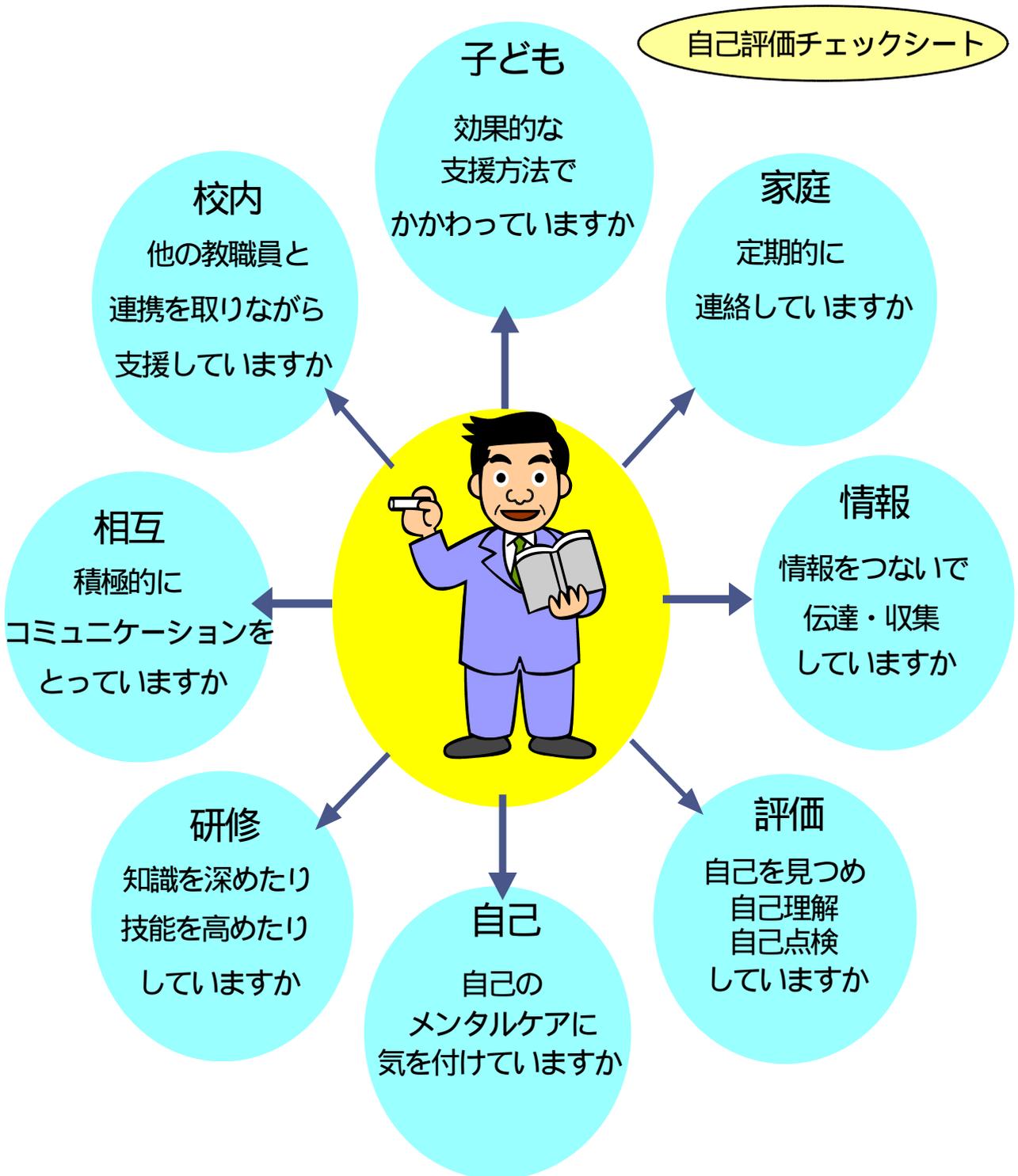
不登校児童生徒の支援に悩んでいませんか？  
子どもや保護者とのかかわりに不安はありませんか？  
学校で担任が一人で抱え込んでいませんか？

自己点検は、自己理解を図ることです！  
あなたや学校の不登校支援をチェックしてみましょう！  
問題解決の糸口をきっと見つけれられることでしょう！！

教育相談 G 長期研修員 奥山 隆  
長期研修員 田島 育子  
主任指導主事 懸川 武史

< 個人用評価 >

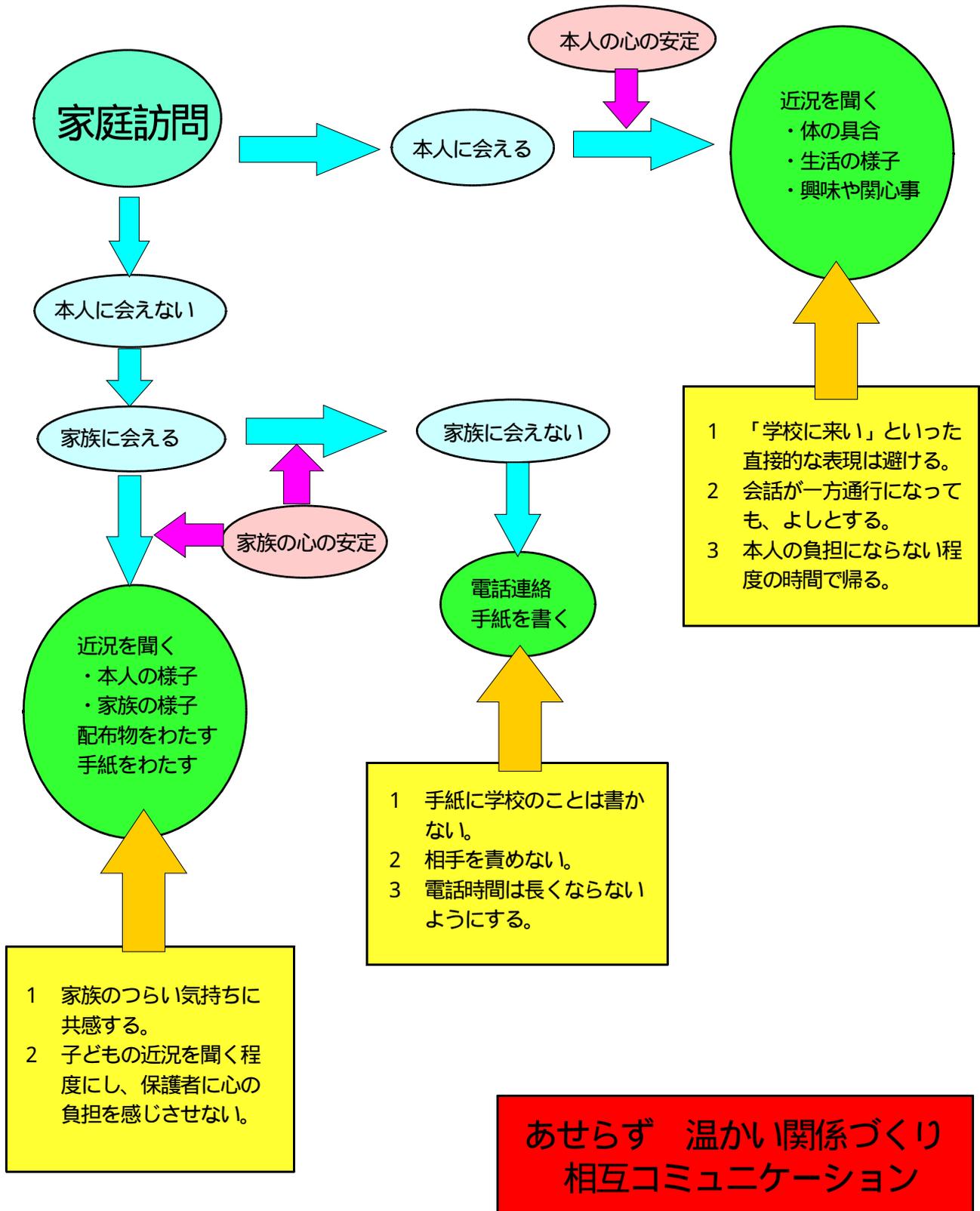
タイミングのよい支援になっていますか？



気になったところは、「不登校支援・確認シート」で細かくチェックしましょう

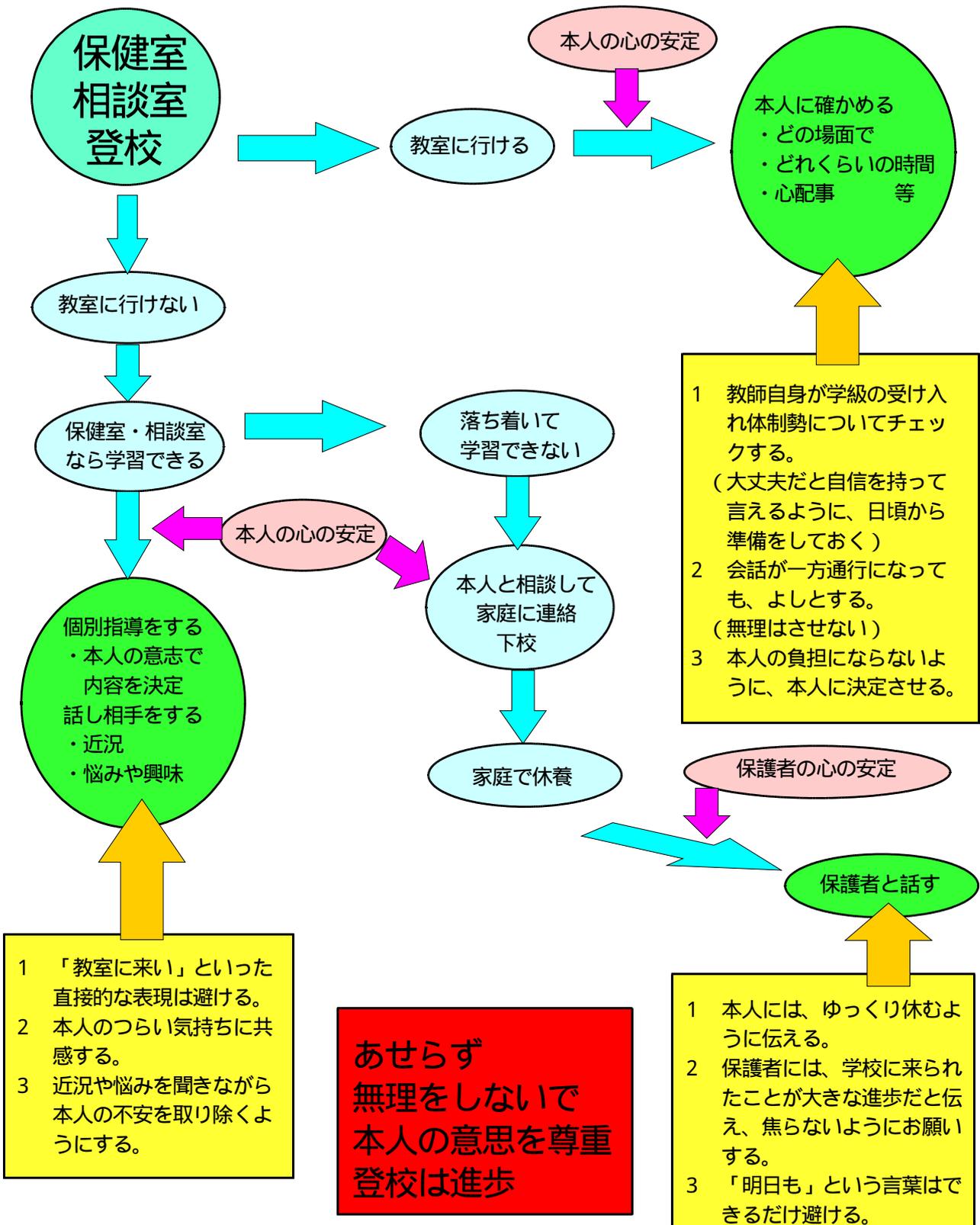
対応例 1

こんな時、どうする？（家庭訪問 編）



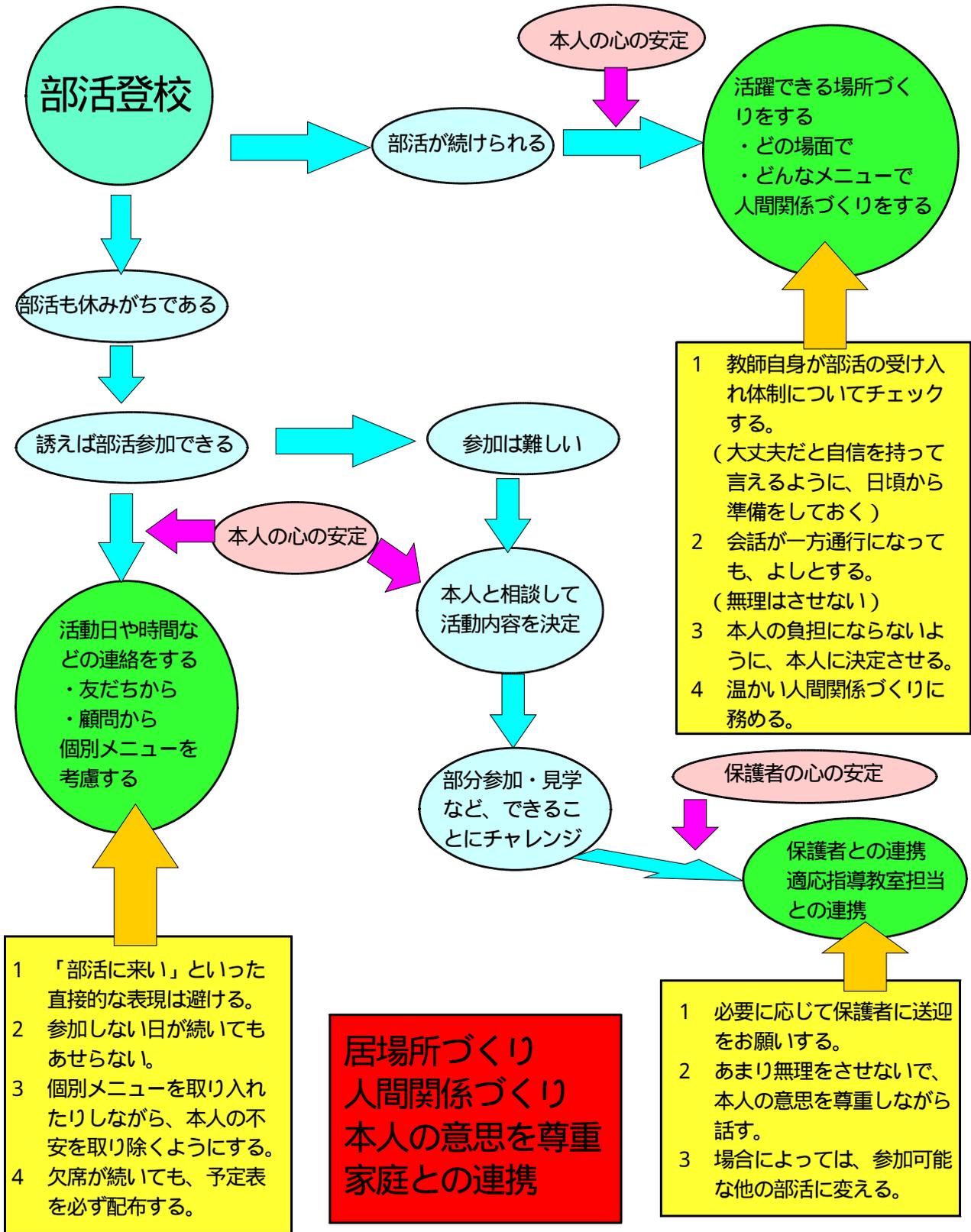
対応例 2

こんな時、どうする？（保健室・相談室登校 編）



対応例3

こんな時、どうする？（部活登校 編）



- 1 「部活に来い」といった直接的な表現は避ける。
- 2 参加しない日が続いてもあせらない。
- 3 個別メニューを取り入れたりしながら、本人の不安を取り除くようにする。
- 4 欠席が続いても、予定表を必ず配布する。

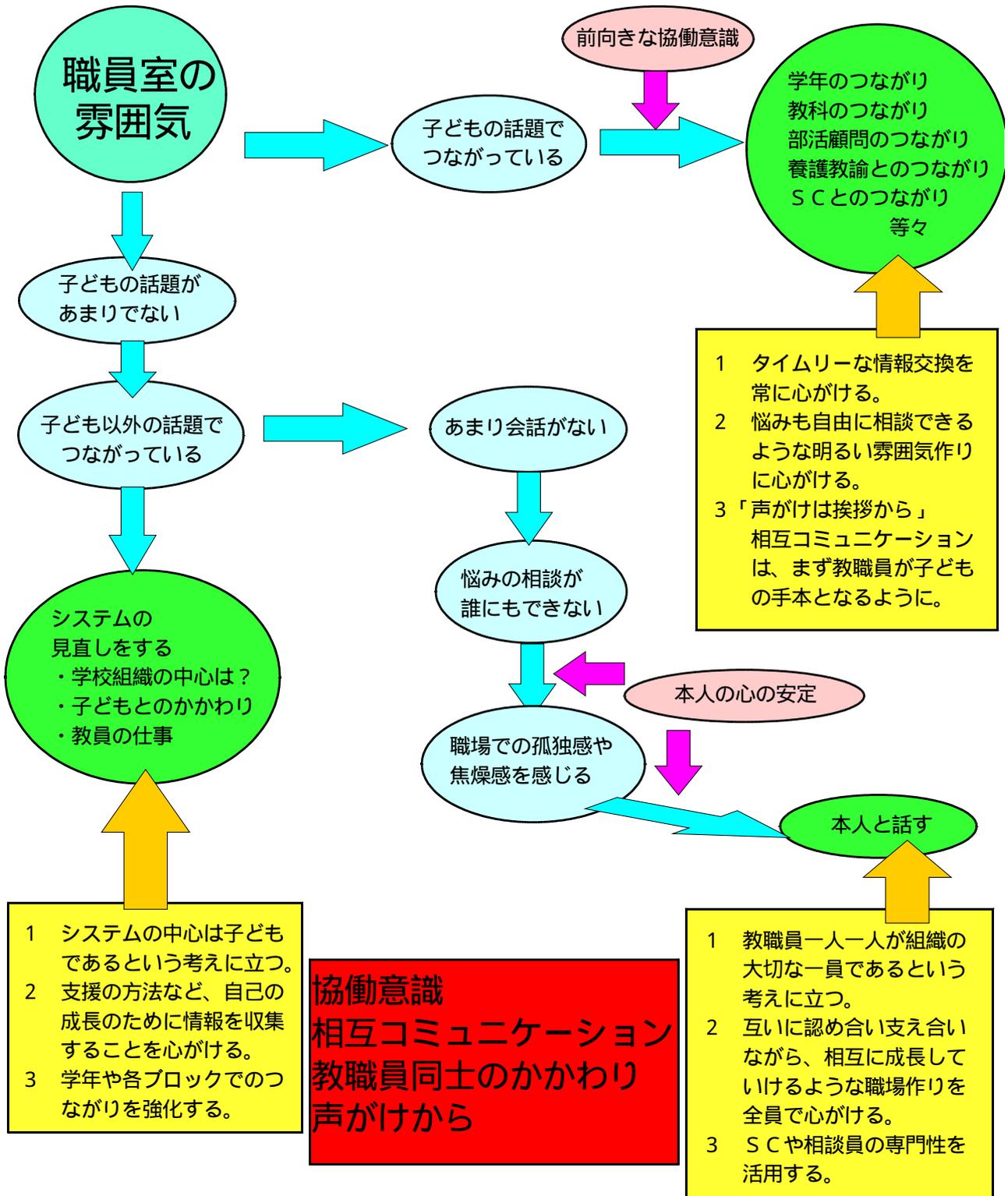
居場所づくり  
人間関係づくり  
本人の意思を尊重  
家庭との連携

- 1 教師自身が部活の受け入れ体制についてチェックする。  
(大丈夫だと自信を持って言えるように、日頃から準備しておく)
- 2 会話が一方通行になっても、よしとする。  
(無理はさせない)
- 3 本人の負担にならないように、本人に決定させる。
- 4 温かい人間関係づくりに務める。

- 保護者の心の安定
- 1 必要に応じて保護者に送迎をお願いします。
  - 2 あまり無理をさせないで、本人の意思を尊重しながら話す。
  - 3 場合によっては、参加可能な他の部活に変える。

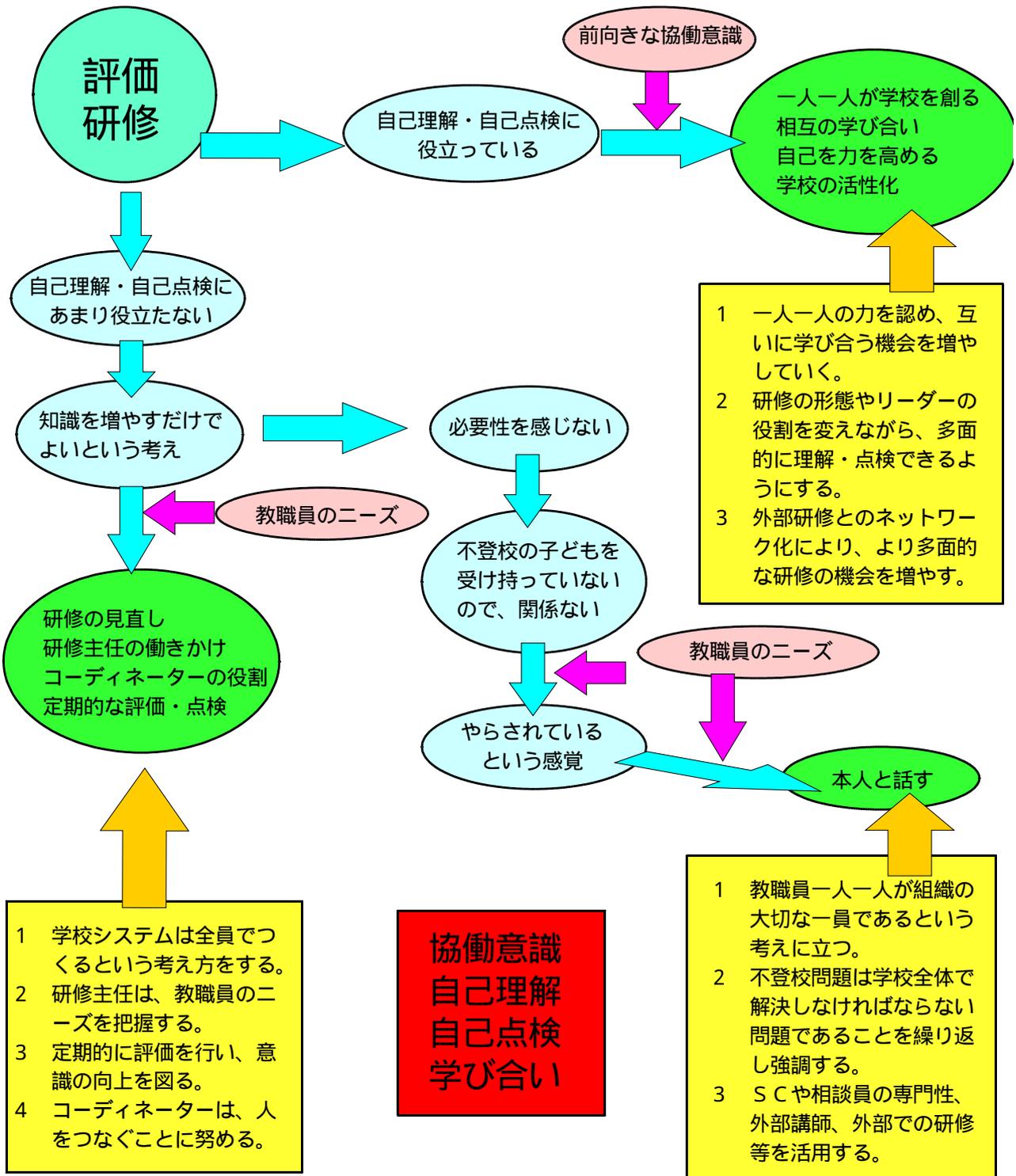
対応例 4

こんな時、どうする？（職員室 編）



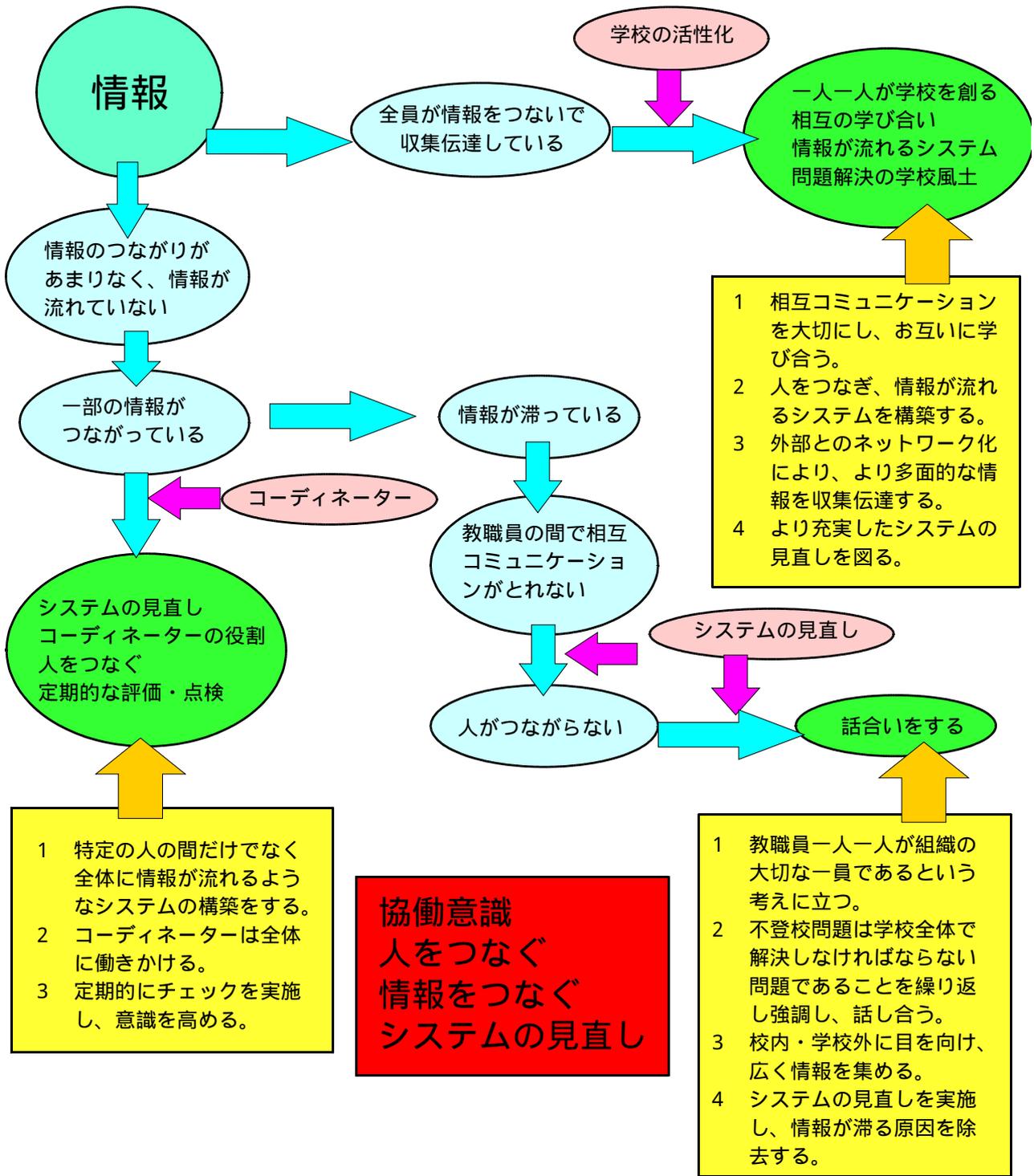
対応例 5

こんな時、どうする？（評価・研修 編）



対応例 6

こんな時、どうする？ (情報 編)



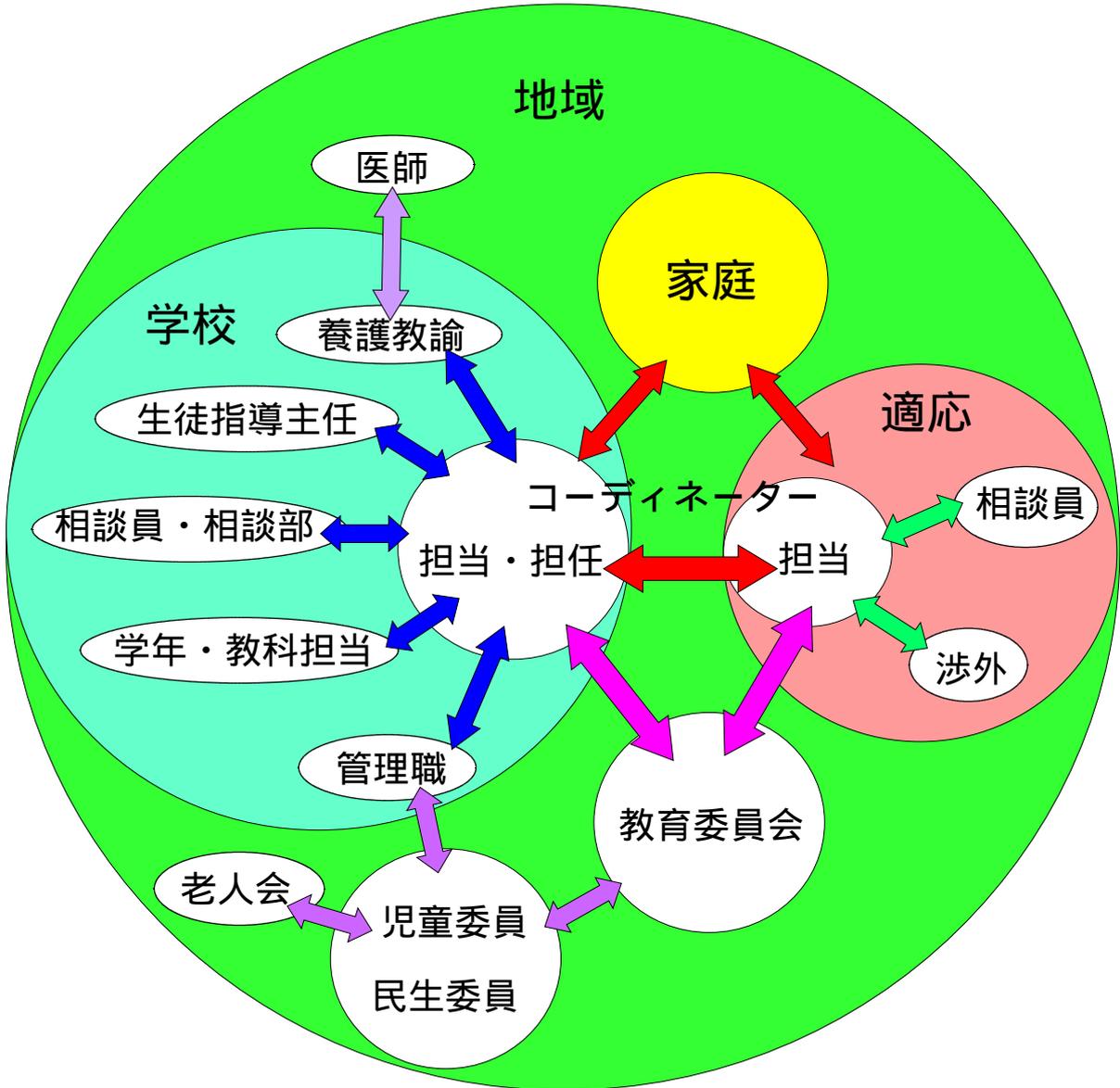
# <連携システム評価>

## 情報は流れていますか

学校復帰に向けて子どもの正確な情報が流れているかチェックしましょう。

確認がすすんでいる ↔ や必要のない ↔ に印を付けると  
情報が流れていないところがチェックできます。

チェックシート



チェックした ↔ には、具体的な確認事項がかかれています。

情報が流れていない！



足りないところはありませんか？

コーディネーターは、学校の担任や不登校担当

### 個人カード

- ・作成してありますか。（大人用、子ども用）
- ・学校、適応指導教室、家庭での様子が書いてありますか。
- ・なるべく頻繁にカードの交換をしていますか。

### 電話連絡

- ・週1回以上、電話をして現在の状況を情報交換していますか。
- ・声かけに効果的な子どものエピソードを知らせていますか。
- ・行事予定や学習の進路など、子どもに必要な情報を交換していますか。

### 情報交換会議・面談

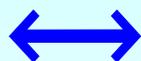
- ・会議のメンバーは決まっていますか。
- ・必要に応じて情報交換会議を設定していますか。
- ・目標を明確にし、実態を理解した上で支援方針を立てていますか。
- ・誰が、いつ、どんな方法で支援をするか、役割分担をはっきりさせていますか。
- ・今までの支援方法を目標に従って評価していますか。
- ・定期的に保護者（子ども）との面談を実施していますか。

### 相互支援

- ・学校の不登校担当や担任が、適応指導教室の様子を見に行っていますか。
- ・適応指導教室の担当が、必要に応じて学校行事に参加していますか。
- ・必要に応じて家庭訪問を実施していますか。
- ・保護者が相談しやすい環境整備に努めていますか。

温かい人間関係づくり・実態に応じてアレンジ

情報が流れていない！



足りないところはありませんか？

コーディネーターは、学校の担任や不登校担当

### 個人カード

- ・作成してありますか。（大人用、子ども用）
- ・記入や管理の方法、活用の仕方等の共通理解がされていますか。
- ・なるべく頻繁にカードの交換をしていますか。

### 情報をつなぐ

- ・授業中の気付きや部活動での様子を情報交換していますか。（よい点や心配事など）
- ・声かけに効果的な子どものエピソードを知らせていますか。
- ・放課後や空き時間に、職員室で子どもの活躍の様子を話題にしていますか。
- ・職員全員が子ども一人一人を理解しようとしていますか。

### 情報交換会議

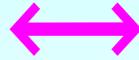
- ・必要に応じて情報交換会議を設定していますか。
- ・目標を明確にし、実態を理解した上で支援方針を立てていますか。
- ・誰が、いつ、どんな方法で支援をするか、役割分担をはっきりさせていますか。
- ・今までの支援方法を目標に従って評価していますか。
- ・決定した情報を学校全体に流していますか。

### 相互支援

- ・「不登校についての情報交換」が学年会の議題に載っていますか。
- ・学年や教科担当者で協力しながら指導方法を検討していますか。
- ・校内研修の時間などを活用して、不登校に関する研修を実施していますか。
- ・教室、保健室や相談室などの教育環境整備に努めていますか。

温かい人間関係づくり・実態に応じてアレンジ

情報が流れていない！



足りないところはありませんか？

コーディネーターは管理職や担当・指導主事など

### 連絡（学校から教育委員会へ）

- ・学校の実情を知らせていますか。
- ・月例報告の際に、気付いたことを知らせていますか。
- ・教育環境について相談していますか。

### 連絡（適応指導教室から教育委員会へ）

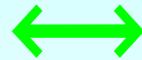
- ・適応指導教室の運営について相談していますか。
- ・行事予定や支援内容、子どもの様子などを知らせていますか。
- ・教育環境について相談していますか。

### 情報交換会議

- ・会議のメンバーは決まっていますか。
- ・必要に応じて情報交換会議を設定していますか。
- ・目標を明確にし、実態を理解した上で支援方針を立てていますか。
- ・誰が、いつ、どんな方法で支援をするか、役割分担をはっきりさせていますか。
- ・今までの支援方法を目標に従って評価していますか。
- ・教育環境についての相談を定期的に行っていますか。
- ・人材開発に努めていますか。

温かい人間関係づくり・実態に応じてアレンジ

情報が流れていない！



足りないところはありませんか？

コーディネーターは、適応指導教室担当

### 個人カード

- ・作成してありますか。（大人用、子ども用）
- ・適応指導教室での様子や子どもの変化などが書いてありますか。
- ・全員でカードのチェックをしていますか。

### 面談

- ・定期的に、必要に応じて子どもとの面談を実施していますか。
- ・定期的に家族との面談実施していますか。
- ・守秘義務の範囲内で、支援に必要な情報を交換していますか。
- ・必要に応じて家庭訪問を実施していますか。

### 情報交換会議

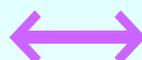
- ・会議のメンバーは決まっていますか。
- ・必要に応じて情報交換会議を設定していますか。
- ・目標を明確にし、実態を理解した上で支援方針を立てていますか。
- ・誰が、いつ、どんな方法で支援をするか、役割分担をはっきりさせていますか。
- ・今までの支援方法を目標に従って評価していますか。
- ・一日の始めと終わりに打合せを実施して、支援内容の確認をしていますか。
- ・教育環境の整備について話し合っていますか。

### 相互支援

- ・役割分担を明確にして、適応指導教室を運営していますか。
- ・協力しながら支援にあたっていますか。
- ・保護者が相談しやすい環境整備に努めていますか。

温かい人間関係づくり・実態に応じてアレンジ

## 足りないところはありませんか？



コーディネーターは管理職や指導主事など

### 連絡（学校と地域）

- ・学校の実情を地域に知らせていますか。
- ・学校公開などを通じて、気付いた情報を交換していますか。
- ・学校評価などによって地域の意見を聞いていますか。
- ・教育相談に関する人材開発に努めていますか。
- ・地域の医師と協力体制ができていますか。
- ・教職員が積極的に地域の人とかかわっていますか。

### 連絡（教育委員会と地域）

- ・適応指導教室の活動内容や様子などを地域に知らせていますか。
- ・地域での子どもの様子など、情報を収集して学校や適応指導教室に伝えていきますか。
- ・教育相談に関する人材開発に努めていますか。
- ・不登校問題についての理解を得るために研修を設定していますか。

### 情報交換会議

- ・会議のメンバーは決まっていますか。
- ・必要に応じて情報交換会議を設定していますか。
- ・誰が、いつ、どんな方法で支援をするか、役割分担をはっきりさせていますか。
- ・今までの支援方法を目標に従って評価していますか。
- ・緊急連絡が取れる体制になっていますか。
- ・教育環境についての相談を定期的実施していますか。
- ・人材開発に努めていますか。

## < 参考資料 >

不登校支援を見直してみませんか？

# 不登校支援・確認シート

- 学校復帰を“かかわり”“つながり”で支援する -



この「不登校支援を見直してみませんか？不登校支援・確認シート」は、適応指導教室を学びの場としたフィールドを通して構築した、【システムに着目した不登校児童生徒の学校復帰モデル】に基づき作成したものです。

各学校における不登校支援を見直すとともに、各学校における現状の課題を明確にした上で、対応を検討していただく一助になればと考えました。チェックリストを確認の上、改善が必要と思われる項目については、参考資料を参照し、改善策を検討していただけたらと考えています。

不登校児童生徒（以下、不登校児と記す）に対する支援は、不登校児童生徒の状態や支援のニーズによるものであり、不登校児童生徒とのかかわりを通じた教師の学びを支援策として具現化することが必要であると考えます。

教育相談 G	長期研修員	奥山	隆
	長期研修員	田島	育子
	主任指導主事	懸川	武史

## 【学級担任】

### 1 担任の意識

確認したい項目	ワンポイント！
登校していない不登校児を早期学校復帰させたいと願う気持ちがある。	教師を支えている根底にあるものは、子どもに対する愛情であり、熱意である。
支援にかかわる不登校児のニーズは何か、把握しようと努めている。	一方的な思い込みでは、支援のニーズはキャッチできない。「子どもに聞く。子どもの姿に感じる。」
不登校児の学級の係などが本人との相談のうえで決定されている。	子どもの思い・願いが反映されたものでなければならない。子どもとよく相談して決めたいですね。
不登校児の解決すべき課題を継続的にかかわりを通して、ともに解決していこうと努めている。	不登校は、子どもが内在しているものではない。子どもを取り巻く「大人が解くべき課題」でもある。
不登校児がいつでも再登校できるように人的物的環境を整えている。	担任や学級の中に、自己存在感を得られない状況で学校復帰はあり得ないでしょ！

### 2 不登校児への働きかけ

確認したい項目	ワンポイント！
電話や家庭訪問をまめに行い、つながりを保っている。	担任が電話・家庭訪問した事実が必要なのではなく、子どもがつながっていると感じているかどうかです。
不登校児のよさを認め、肯定的な評価を与えている。	子ども自らが問題に対応していくためには、自己肯定感を高めていくことが必要条件ですね。
学校や学級での学習や生活の様子が不登校児に伝わっている。	様子が分からない未知なところへ足を歩めるには、相当な力が必要です。ハードルを低くして抵抗感をなくしましょう。
不登校児とのかかわりでは、一方的な働きかけでなく、当人の心の声を傾聴する相互コミュニケーションが図られている。	「気持ちを聞いてくれる。」「自分を分かろうとしてくれる」かかわりが大切ですね。
部分登校について、適切な登校刺激であるとともに、本人の自己決定による無理のない段階的登校になっている。	十分な話し合いや助言から、子どもが決める。子どもの意思がそこにある再登校にしたいですね。
二次的な要因ともなる学力低下にかかわり、学習プリントを届けたり、補習したりするなどの支援を行っている。	まずは、二次的要因を生み出さない早期対応が必要。子どもの状態による学習支援を心がけ、学力保証したい。

### 3 保護者への働きかけ

確認したい項目	ワンポイント！
不登校児を抱えて悩んでいる保護者と問題をともに解決していこうとする支援を行っている。	保護者の不安を解消し、問題解決のパートナーとして 情報共有・行動連携により支援していきたい。
電話や家庭訪問などをまめに行い、つながりを保っている。	保護者がつながっていると感じているかどうかが大変重要。顔の見える関係 信頼関係の構築に努めたい。
不登校児の家庭における情報を把握している。	常に変容している子どもの状態を把握しましょう。そのためには、保護者との密な情報連携が必要です。
不登校児が抱えている課題を家族全体の問題ととらえ、家族システムへの支援を行っている。	保護者のニーズに沿って、家族システムにおける課題について、ともに考えていくことも重要な支援です。
学校だよりなどの配布物などが、確実に保護者に届いている。	長期化すると、届かなくなってしまうがちなのが学校からの配布物です。重要なポイントです！
不登校支援にかかわる情報（適応指導教室の紹介、保健室登校、相談機関など）を伝えている。	子どもの状態に即した段階的支援として関係機関などの情報を提供できるように把握しておこう。
学校・学級にかかわる情報を提供している。	現在の学校や学級の様子を常に情報提供することで、保護者の学校理解を促進しましょう。

### 4 学級への働きかけ(学級風土)

確認したい項目	ワンポイント！
不登校児の机がいつも整理されている。	学級内において、いつでも復帰できる環境（物的・心・的）を整えておきたい。
学級の仲間は、不登校児に関する必要な情報を伝えられて知っている。	仲間で、不登校児を温かく迎入れる風土を作ること。不登校児を理解することがつながりを促進します。
不登校児を復帰させたい担任の姿勢が子どもに伝わっている。	「あなたがいて、私のクラス」終始一貫、子どもに背中で語る教師でありたい。
児童生徒一人一人を尊重し、互いを認め合い支え合う学級の雰囲気構築されている。	不登校問題の究極の解決策は、「不登校を出さない学校・学級作り」その基本は、支え合い・認め合いです。
班編制や係決めでは、不登校児を支援する配慮がなされている。	支援の観点から、不登校児理解による当人への配慮をしましょう。
親しい友人が不登校児に自主的に働きかけるような風土がある。	学級は、児童生徒にとっての心の居場所です。学級の仲間は、不登校支援の最も重要

	な人的資源です。
子どもが主体的に活動したり、思いが生きるなど、自己存在感を感じている。	学級では、仲間同士の共感的理解の関係作り・自己決定の場作り・自己存在感が感じられる学級風土を築きましょう。
子どもが自分の意思で決定する場を設けている。	児童生徒が主体的に取り組む活動を展開するためには、児童生徒の意思による自己決定が大切です。

## 5 学校への働きかけ(問題解決の学校風土)

確認したい項目	ワンポイント！
学校組織として、協働態勢で不登校児童生徒を支援するように働きかけている。	担任とのつながりを学校とのつながりにするためには、学校組織としての取組が必要不可欠です。
不登校児の近況、心身の状態などについての情報を流している。	先生方が不登校生徒と適切なかかわりをもつためには、子ども理解のための情報を共有することが大切です。
校長、教頭への報告・連絡・相談をまめに行っている。	校長・教頭への報告・連絡・相談がされずに何も知らない状況は、絶対に避けなければなりません。
相談員やスクールカウンセラーに不登校児童生徒の状況が伝わっている。	心理的支援の専門家との情報の提供・交換により、適切な支援策が見えてきます。「専門家に聞け！」
コーディネーター(不登校担当や教育相談主任など)との連絡が密にとれている。	情報を動かし、人を動かし、組織を動かす要としてのコーディネーターに、情報を積極的に提供しよう。
個人の意思を尊重する対応がなされている。	個人の意思を尊重した無理のない段階的再登校を支援する対応について、学校は臨機応変に行えますか。
不登校児の学校復帰について、教師間で話題となる。	日常的に不登校児の話題ができること雰囲気は、教師の意識と学校風土の表れです。
不登校児の自己決定に即して、受け入れ対応が柔軟性である。	学校の枠組の幅を柔軟に変え、臨機応変に対応することができますか。
不登校児理解やその支援などについて、研修する場がある。	不登校に学ぶ教師。支援者として学ぶ場を校内研修に位置づけ、計画的に資質及び技術向上に努めましょう。
不登校を未然に防ぐ保護者への情報提供や家庭教育への支援などを、保護者会や学校だよりなどで行っている。	家庭教育支援を学校として、計画的に進めたい。不登校を出さないことが最大の解決策です。
不登校児の状態に即して、学校システムや校則などを一時的・段階的に、柔軟に対応することができる。	子どもに変化を求めながら変わらない学校。良好なつながりを築くためには、自己変容が必要不可欠です。

## 【コーディネーター(教育相談主任または不登校担当)】

確認したい項目	ワンポイント！
学級担任を継続的にフォローしている。状況によっては、担任に替わり不登校児にとっての学校の窓口になっている。	担任の精神的支えとなり、寄り添いましょう。また、校長・教頭の指示を得ながら、担任との行動連携を！
学級担任との協議から、必要に即して家庭訪問や電話相談などで家庭と連絡を取り合い、情報及び行動連携を進める。	担任と子ども、保護者との関係を見極めながら、時に、主導することも必要です。
学級担任との連携を密にし、不登校児理解のための情報を得るように努めている。	情報が集まらなければ、全体に流すことができません。また、多面的理解につながらない場合が生じます。
定期的に部会などを開催し、子ども理解を深める推進役として、不登校児のための情報を流し、情報共有に努めている。	情報収集の資源は、全ての教師及び子ども、保護者です。子ども理解を促進してください。
寄せ合った情報から課題を明確にするとともに、支援策をコーディネートしている。	多面的理解による支援の在り方について、組織をとりまとめ、共通理解を図りましょう。
学級担任や不登校児にかかわる教師に、必要に即して適切な助言などを行っている。	日常的な教師と子どもとのかかわり方などについて、学び合う教師集団でありたいですね。
段階的再登校などでは、スモールステップによる共通目標を確認し、不登校児童生徒にかかわる教師に働きかけている。	全ての教師が共通目標を持てるように積極的に働きかけてください。
全ての教師に不登校支援にかかわる協働を啓発している。	コーディネーターの仕事ぶりが問われています。背中で語る不登校支援。
校内支援体制が機能し活性化しているかどうかについて把握し、機能不全している場合、その改善に当たっている。	校内支援体制が機能しているか常に把握しましょう。機能状況をチェックし、改善に努めましょう。
適応指導教室や医療機関などの関係機関と連携し、情報をつないでいる。顔が見える関係を築いている。	まめに、連絡を取り合っていますか。必要に迫られて動き出すような連携は、真の連携とは言えません。
心の教育相談員やスクールカウンセラーと連携し、情報交換するとともに、専門的視野からのアドバイスを得る。	心理的支援の専門家との情報の提供・交換により、適切な支援策が見えてきます。「専門家に聞け！」
校長・教頭との報告・連絡・相談を常に行い、指示を得る。	校長・教頭への報告・連絡・相談が機能していますか。必ず、行いましょう。
情報を動かし、人を動かし、組織を動かす要として、リーダーシップを発揮している。	学校組織としての校内支援を機能させる重要な存在です。

## 【学校組織及び支援にかかわる全ての教師】

### 1 チームで支援する

確認したい項目	ワンポイント！
学校組織として支援する校内態勢がある。	担任一人が抱え込んでいませんか。問われているのは、問題解決の学校風土です。
不登校児の背景や変容についての情報を記録する個別カルテなどが用意されている。	「記録をとる」鉄則です。変容をみとり課題を明確にしたり、支援策を講じたりする上で、貴重です。
学校組織として支援策を検討する場が定期的に設けられている。	時間の確保に努めましょう。近況報告会に終始してしまう会議では、不十分です。
学校組織として支援するための計画がある。	場当たりの支援であってははいけません。コーディネーターが中心となって、計画的に進めましょう。
それぞれの支援者は、共通目標及び段階的なステップを共通理解して不登校児童生徒にかかわることができる。	共通理解なしにかかわる教師の言動一つで、全てを振り出しに戻ってしまうことがあります。
職員は、不登校児支援に当たって、協働意識をもち取り組んでいる。	担任が抱える個人的な学級に内在する問題ではありません。学校とつながるために、全体で取り組もう。
校長・教頭は、担任及びコーディネーターから情報を得るとともに、リーダーシップを発揮している。	学校風土は、校長のリーダーシップによる舵取りにかかっています。
不登校支援に当たり、コーディネーターは、学校組織を活性化させている。	情報を動かし、人を動かし、組織を動かす要として、リーダーシップが期待されます。
関係機関（適応指導教室や医師、民生児童委員など）と必要に応じて連携できている。	どの関係機関と連携したらよいか把握していますか。必要に即してすぐに連携できますか。

### 2 問題解決の学校風土(問題解決力の向上)

確認したい項目	ワンポイント！
不登校児理解を促す情報（心身の状態や家庭での様子、変容の様子など）が流れ、共有されている。	まずは、不登校児を理解することから始まります。子どもの状態は常に変容しています。
不登校児と学校との共有している課題が明確になっている。	無益な原因追及に向かうことなく、関係の中に生じている不登校について正しく理解できていますか。
教師は、不登校児に対する「今、ここ」での適切な対応をすることができる。	不意に廊下ですれ違ったり、久しぶりに授業に参加したりしたときに、適切な対応ができますか。
不登校児との相互コミュニケーションから支援のニーズや新たな課題を感じ取ることができる。	「感じ取る感覚」を磨きましょう。子どもの発した言葉だけが、コミュニケーションではありませんよね。
不登校児との相互作用から、学校は不登校児のニーズに臨機応変に対応する柔軟さを有している。	つながりを良好な関係に変えるには、臨機応変な自己変容は不可欠。その柔軟さを持つことができるか。

